

明石市長が辞意

暴言問題で引責

道路の拡幅工事をめぐり、市職員に「火をつけて捕まってい」などの暴言を浴びせたとして問題になっている明石市の泉房穂市長(55)が「発言の責任を取りたい」として辞任の意向を固めたことが1日、分かった。市幹部によると、泉市長は「引き留める声もあるが、自分の発言に責任を取りたい」などと話し、引き留めにも応じなかったという。

明石市選挙管理委員会事務局によると、市議会議員から選管に辞職通知が届



泉房穂明石市長

く、50日以内に出直し市長選を実施しなければならぬ。泉市長の任期は4月30日までで、同21日の統一地方選に同市長選も予定されている。それまでに立直し選があり、新人候補が当選した場合は4年間の任期が始まる。一方で、泉市長が出直し選に立候補し、当選した場合は、4月30日の任期は変わらず、再び市長選が行われることになる。

同問題では、明石駅南の国道2号の拡幅工事をめぐり2017年6月、土地買収に依拠していなかった地権者の建物について、市職員との内部協議の場で「火つけて捕まってい、おまえ。燃やしてしまえ。損害賠償を個人で負え」などの暴言を浴びせていたことが今年1月28日に判明。29日に市役所で記者会見を開き、事実を認めて謝罪していた。

その際、辞職は否定し、すでに立候補を表明している4月の同市長選について「市民の判断を仰ぎたい」と、改めて立候補の意向を示していた。